



【栃木北中学校（令和 8 年 4 月開校） 第 1 回体育祭】

— スローガン「三魂一体 勝利を駆けろ」—

※「三魂一体」には、皆川、吹上、寺尾の三つの中学校の魂が一つになり、体育祭を成功させるという生徒たちの思いが込められています。



栃木市
マスコットキャラクター
とち介

「誰一人取り残さない教育の推進」

『第 3 期栃木市教育計画』

基本理念

希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し
互いに認め合いながら より良い社会を築いていく
‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます



栃木市教育ニュース



市内の小中学校において、「学校・家庭・地域」が連携協働した取組の様子を、市民の皆様にお知らせします。

地域とともにある学校 (コミュニティ・スクール)



【西方小：2年生 町たんけん
(まちのでんきやさん)】



【皆川城東小：1・2年生 生活科
「れんげ畑へ行こう」】



【大平中：2年生 地域で働く人に学ぶ】



【大平南小：1年生 サツマ苗植え】



【岩舟小：交通安全教室
(下校見守りボランティア)】



【部屋小：4年生 よしず作り体験活動】



教育委員の活動日誌



教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、新任委員1名の紹介をします。

新任委員紹介

教育委員を務めさせていただくことになりました上野 耕史と申します。

私はこれまで、中学校、教育行政、教員養成系大学と、様々な立場で教育に関わってまいりましたが、私の生き方の基礎となっているのは、栃木市内中学校で生徒や保護者の皆様、そして先生方との関わりの中で得た多くの学びです。この度、「とちぎ愛」を原動力に、よりよい未来の創造を目指す栃木市の教育に携わり、私を育ててくれた栃木市に恩返しができる機会をいただけたことに、深く感謝しております。

先輩教育委員の皆様や教育委員会事務局の方々のご指導を受けながら、本市の教育発展のため精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



教育長職務代理者 上野 耕史

定例教育委員会



毎月開催している教育委員会の会議です。

本市の教育に関する様々な事務について、事務局職員からの説明を聴いたうえで、7名の委員が活発に協議を重ね、実施の決定等審議を行っています。

「第3期栃木市教育計画」

～「誰一人取り残さない教育」を目指して～



令和5年3月に策定した「第3期栃木市教育計画」が4年目を迎えました！

本計画の基本理念については、毎号表紙下段で紹介していますが、この基本理念を支える**4つのキーワード**を次のように掲げています。

- ・本市名誉市民の山本有三先生が遺された思いや精神に繋がる「**生命尊重・人権尊重**」
- ・これからの時代への対応として、予測困難で多様化が進む社会の中でも生き生きと活躍できるための「**生きる力・生き抜く力**」・「**多様性・包摂性**」
- ・ふるさとを大切に思い、将来まちづくりに進んで取り組むための「**郷土愛**」

本市では、これら4つのワードを大きな鍵とし、「誰一人取り残さない教育」に取り組んでいます。そこで、今回は、4つのワードをテーマにした教育委員のメッセージを紹介します！

「生命尊重・人権尊重」

世界にただ一人の存在であるあなたの命を大切にし、自らの可能性をあきらめないこと。これが生命尊重の第一歩です。

栃木市教育計画が掲げる「生命尊重・人権尊重」の根底には、すべての「人間を人間として尊重する」強い思いがあります。人は常に完璧で、自立しているわけではありません。困ったときに信頼して助けを求められるつながりを多くもつことこそが、真の自立です。

「たったひとりしかない自分」を育む教育と、その弱さも認め合い社会全体で守る福祉。教育と福祉のつながりを大切にしながら、子どもたち一人ひとりの尊厳が守られ、誰もが人間らしく、安心して自分らしく生きられる人づくり・まちづくりに協力してまいります。

教育委員 岩崎 好宏



「生きる力・生き抜く力」

子どもたちは成長の過程で、生きる力を段階的に育んでいきます。幼児期には、遊びや体験を通して「やってみたい」という好奇心や学びの芽が育ちます。

小学校では、友達との関わりや様々な挑戦を通して、自ら考え行動する力を身につけていきます。また、中学校では、「自分はどう生きたいのか」「何を大切にしたいのか」を問いながら、自分なりの価値観や判断力を育んでいきます。

変化が激しく先の見通しにくい時代だからこそ、知識や技能だけでなく、自ら学び続ける力や他者と協働する力が求められています。子どもたち一人ひとりの可能性を信じ、安心して挑戦できる環境を整えることが、私たち大人の大切な役割です。子どもたちが未来をたくましく生き抜く力を育めるよう、地域全体で支えていきたいですね。

教育委員 舘野 知美



「多様性・包摂性」

英語圏では「多様性」はパーティーに招待されることであり、「包摂性」はダンスに誘われることだと例えられるそうです。

「多様性」とは、価値観、性別、年齢、経験など、私たち一人ひとりがもつ「違い」そのものを指します。一方、「包摂性」とは、その違いを認め、尊重し、安心して居られる環境や雰囲気の意味するのではないのでしょうか。

居心地がよく安心感のある教室で、お互いの違いを認め尊重し合う中、子どもたちは目を輝かせながら自分らしく力を発揮できます。また、自分の思いを安心して表現することもできます。

そのような温かい環境の中で、子どもたち一人ひとりが『主役』となって活躍する様子を、これからもたくさん参観したいです。

教育委員 西脇 はるみ



「郷土愛」

目まぐるしく時代が移り変わる現代だからこそ私たちが忘れてはならない、そして大切に守り続けたい言葉が「郷土愛」です。

栃木市には、豊かな自然や歴史、伝統行事など数多くの魅力があります。

私の住む地域にも魅力的な行事が数多くありますが、その中でも「夏祭り」は地域の方々が触れ合い言葉を交わしながら絆を深める、まさに郷土愛を育む大切な行事の一つです。幼いころから地域の方々との交流の中で得られる学びや経験は子どもたちにとって、かけがえのない心の財産となります。そして、将来「この地域で育ってよかった」と思える気持ちへとつながっていくのではないのでしょうか。

私自身も郷土愛を大切にしながら、地域への感謝の気持ちを忘れず、これからの子どもたちへ、その大切さを伝えていきたいと思います。

教育委員 大塚 裕子





栃木市教育研究所主催の希望研修会

～教職員の学び合いを手助け！～



栃木市教育研究所は、「学び続ける教員」を支える機関です。「考える」「助ける」「学び合う」という3つの機能を方針として掲げ、研修会の実施や教育研究発表会の開催等を行っています。そのひとつに、先生方の日々の悩みや課題を話し合ったり、学び合ったりする、希望研修会があります。希望研修会は、授業づくりラウンドテーブル、イングリッシュサロン、かかわりパワーアップセミナー、ICT活用ワンポイントレッスンの4つの研修会があり、市内の先生方は誰でも、そして、どの研修にも自由に参加することができます。

5月に行われた第1回授業づくりラウンドテーブルでは、日々の授業で課題に感じていることや悩んでいることをテーマに、参加者の先生方が語り合いました。同じく5月に実施した第1回ICT活用ワンポイントレッスンでは、今年度から新しくなったタブレット端末の機能について講師の先生を招いてお話をいただき、実際に操作を体験しました。教育研究所の希望研修会では、今後も先生方に様々な学びの場を提供していく予定です。

先日、栃木市教育研究所主催の希望研修「かかわりパワーアップセミナー」を見学しました。

若い先生から管理職の先生までの様々な世代の先生が一緒になって、学校の終わった夕方から学んでいました。一人ひとり考え方や性格の違う子どもたちと向き合っている先生方は苦勞も多いと思いますが、常に学びを忘れず、子どもたちに真剣に寄り添っている姿勢は、本当に素晴らしいと感じました。

「すべては、子どもたちのため！」

先生方のその思いがひしひしと伝わってきた素敵な学びの場でした。

教育委員 五十嵐 幸男



教育長通信

～ 急がない時間 ～



早いもので、現職に就いて9年目を迎えています。その間一貫して主張し続けてきたことのひとつが、本市教育の根幹には、予てから山本有三先生の教えである「生命尊重・人権尊重」の精神が息づいているということです。

山本有三先生といえば、大正から昭和にかけて活躍した本市出身の文豪であり政治家でもある、本市が誇る先人の一人です。先生が作品や講話の中で残された名言の数々は、市内各所に設置された石碑にも刻まれ、多くの人々の目に触れるところとなっています。

中でも、私が最も心を動かされた言葉の一つに「自然は急がない」があります。現在、きららの杜とちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）の一角に建つ石碑にも、その言葉が刻まれています。実は、この言葉には前後があり、その全文は「自然は命令しない 自然は急がない だが、一秒たりともなまけてはいない」なのです。

さて、情報技術（IT）や人工知能（AI）が目覚ましく進展する現代においては、それらを駆使して瞬時に必要な情報を得、即座に一定の解を導き出すといったことが日常的に行われる様になりました。一方で、いったん立ち止まって深呼吸し、自らの頭でじっくり考えるといった習慣が、私たちの生活の中からめっきり減ってきてしまったように思えてなりません。

ご案内のとおり、AIはどんな質問を投げかけても、瞬間に答えを提示してくれます。しかし、何を問うかを決めるのは私たち人間です。実際、これからの社会で求められるのは、正解をいち早く出すことではなく、本質的な問いを見つけられることや、誰も気づかなかった課題を発見することだと言われています。そのような力は、急いで答えを求める習慣ではなく、じっくり



きららの杜とちぎ蔵の街楽習館に立つ石碑「自然は急がない」

り観察し考え続ける習慣の中で育まれることは言うまでもありません。

興味深いことに、最先端のIT企業や研究機関ほど、創造性を高めるために、対話や協働、時に散歩することをも重視していると言われています。つまり、新しい発想は常に情報を処理している状態からではなく、情報を寝かせ、熟成させる時間からこそ生まれる…言わば「急がない時間」が重要である、ということではないでしょうか。

自然は命令しない 自然は急がない だが、一秒たりともなまけてはいない

とかく効率性やスピード性を追い求めがちな現代社会を生きる私たちに、この言葉は一世紀もの時代を超えて今なお、いえ、今だからこそ、実に大きな示唆を与えてくれていると改めて感じ入るこの頃です。

教育長 青木 千津子

【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様に、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu02@city.tochigi.lg.jp